

「私にとっての銀座書齋・自習室」

リポート提出日: 2019. 7. 11. (木)

英語道弟子課程・弟子、S.M.

## 私にとっての銀座書斎・自習室

まず初めに、いつも自習室の機会を賜与いただき、そして、今回、レポートにまとめるという機会を賜与いただき、ありがとうございました。

先生から賜与いただいたレポートの題は、「私にとっての銀座書斎・自習室」です。自習室を使わせていただいている時に、感じていること、考えていることを表現すればいいと、最初は簡単に思いましたが、いざ机に向かってみると「壁」に、「感じたことを表現することの難しさ」にまさに「感じる」と「表現すること」の大きな差異にぶつかりました。自習室の時間を感じていること、その何とも言葉にし難いものを、どう表現すればいいのか、ひたりの言葉が、しっくりくる言葉が思い浮かばず、考えれば、考えるほど書けなくなってしまいました。

稽古の予習も復習も、すべては、先生が創り出されたものを、先生から賜与いただいたものを勉強します。すべて先生が導いてくださっています。まとめるにも、ベースがあります。

でも、今回は、少し異なります。もちろん、「題」を「機会」を賜与いただきました。また「自習室」を考えられ、賜与してくださっているのも先生です。ただ、今回は、それを、自分自身が、どのように捉え、どのように感じているのか、自分にとっての銀座書斎・自習室を、どんな言葉を使って、どのように表現すればいいのか、どう文章にするのかという「感じたことを表現する」ことの難しさを改めて知るよい機会となりました。

(さらには、膨大な教材を創り賜与し続けてくださっている先生のはかり知れぬエネルギーと愛情を想像し、自分を奮い立たせました。(私のは「壁」でも「困難」でも何でもないと。))

そこで、まず、これを機に、改めて先生がなせ、「自習室」を賜与してくださったのが、先生の大切なワークスペースと、空間を、先生が創り出された学問の聖域を「自習室」として賜与してくださったのだろうか、いろいろと思い巡らすところから出発しました。

「私にとっての『自習室』」は、第一に、その言葉の通り、自習のための場所と時間を使わせていただく、独りで集中して勉強する時間的空間です。「銀座書斎・自習室」そこは、集中して勉強するのに最高の場所、空間です。静かな場所という点においては、図書館等に行けば、他にもあります。実際、図書館は、私の勉強場所として定着しています。

しかし、銀座書斎の神聖な空気感には他にありません。何より、先生がそばにいてくださいます。もちろん、学習者が集中できるようにと、先生は、ご自身のワークスペースである中央スペースを学習者のために提供して下さり、その間、先生は奥の聖域でお仕事をされていらっしゃる。先生の姿は、目に入りません。けれど、神聖な清らかな空気感の中に先生を感じます。

「ああ、同じ空気を吸わせていただいているのだ」と感じます。

何とも言い難い、心地よい緊張感の中、他では経験できない、集中した時間的空間を持つことができます。勉強を開始すると、スーッと自分が集中できるのかわかります。そして、勉強していることが、ミストのように、全身に入ってきます。

1時間という時間は、あっという間です。けれど、「銀座書斎・自習室」での1時間は、他で過ごす1時間とは比較できないほど、深く広い時間的空間です。

「銀座書斎・自習室」で経験した、集中した感覚をしっかりと全身に刻み、終わった後は、その時間も、感覚を思い出しながら、自分の中で、経験したものを再現しながら、銀座書斎の近くのカフェ等で勉強します（土、日の銀座書斎周辺は、とても静かで気に入っています）。そうすると驚くほどに勉強に集中できます。また、そうすることで、私の中で感覚を忘れないようにします。

次に、「私にとっての銀座書斎・自習室」は、新たな発見（または再発見）、気づきの得られる貴重な時間でもあります。週1回の英語稽古では、周りをゆっくり見る余裕はありませんが、自習室の時間は、飲み物を飲んだりお菓子をいただいたりしながら、周りを見ることもしはしはあります。

飾ってある絵や、銀座書斎で学ぶ皆さんからの先生へのお手紙等を改めて拜見したりします。そうすると、様々な気付きがあります。

時には、先生が、どのような思いで、それをそこに飾られたのかと、想像することもあります。すべてに意味があります。それを、どのように捉えるのか、どのように感じるのかは、人それぞれだと思いますが、私は、私なりに、想像することも含めて楽しんでいきます。時には、ミレーの絵を見て、改めて、働くことの大切さや、大地の恵みの

ありがたさを感じたり、幼い頃に祖父と一緒に植えた玉ねぎのことや、春の田植えや秋の稲刈りのことに思いを馳せることもあります。自習室の時間は、新たな気づきを与えてくれる、そして、人として大切なことを教えてくれる、とても貴重で有意義な時間です。とても楽しい時間です。

さらに「私にとっての銀座書斎・自習室」は、英語稽古以外で銀座書斎を訪問できる、先生に直接お会いしてお話かできる、先生の英知と美意識から構築された場所で、理性的なそして神聖な香りもかぎ、空気を吸うことのできる貴重な機会です。

以前、先生から、たった週に1回で、先生のもっていらっしゃるものを引き継ぐなど、所詮無理、もっと頻繁に銀座書斎に足を運んで、いろいろ感じて経験しなければ、引き継ぐことなど、できないといった主旨のお話をいただいたことがあります。その時は、あまり分かっていませんでしたが、今は、それが、少し分かるように思います。今は、毎日通っても足りないくらいだと思えます。

「私にとっての銀座書斎・自習室」、それは、単なる自習の時間ではありません。清らかで、厳格な、それについて優美な、貴重な学びの経験の時間です。

以上